



テーマ

夜間中学における社会的マイノリティの学びの支援

連携先

守口市立さつき学園夜間学級

主な活動場所

守口市立さつき学園夜間学級

*学外での活動に加え、学内での事前・事後学修を適宜実施します

キーワード

学習支援、マイノリティ支援、日本語教育支援、多文化共生

活動内容 概要

年齢や国籍を問わず、子ども期に基礎的な教育を十分に受けられなかった義務教育未修了者や、不登校で十分に学校に通ってなかった形式卒業者、渡日して日本語学習や基礎的な学びを必要とする外国人等が学ぶ夜間中学で、学習や行事等をサポートする。

活動の目的

- ・夜間中学生のより充実した学びの機会の提供を支援する。
- ・夜間中学の生徒や教職員との交流を通して、日本社会を生きるマイノリティの生活実態や抱える課題を理解し、共生社会の構築に向かう意欲を育む。

求める人材像

- ・人に何かを教えることやコミュニケーションをとることに興味がある。
- ・外国人や障害のある人たちなど、社会的マイノリティの実態に興味がある。

活動を通じて

得られる

知識・スキル・視点など

- 日本社会で生きるマイノリティの抱える困難や課題への理解が深まる
- 義務教育段階の基礎的な教育を教えるための技術や方法が身につく
- 現代の学校教育が抱える課題について考える視点を得られる
- 多様な年齢の多様な背景をもつ人とコミュニケーションをとる力が身につく



テーマ

移民とともに生きる社会を創造する

連携先

神戸定住外国人支援センター (KFC)

主な活動場所

神戸市長田区（新長田駅前 KFC 本部） 神戸市中央区（賀川記念館）

キーワード

外国人児童・生徒支援 多文化共生 マジョリティの変容

活動内容 概要

- ・週に1回～2回外国につながる小中学生の放課後の学習支援教室に通い、子どもたちに寄り添い、学習支援を行い、子どもたちの悩みを聞き、日本に生きる外国につながる子どもたちを取り巻く環境を学ぶ
- ・ボランティアやスタッフなど外国人支援を行う人々の話を聞き今日本社会に必要な変革について学ぶ
- ・KFC主催の学習会に参画し、今ある日本の状況・世界の状況についての見識を深める

活動の目的

外国につながる子どもたちや保護者、その支援者とともに活動することで、日本社会をマイノリティの視点で見つめなおし、いまある日本社会の問題を改善改革するには何が必要か考え行動する力を得る。

求める人材像

- ・他者の視点に寄り添える。傾聴する力を持つ。判断を留保する力(エポケー)を持つ。
- ・異なる意見 / 視点を尊重できる。

活動を通じて
得られる
知識・スキル・視点など

- マイノリティの立場、マジョリティの立場双方から社会を俯瞰する力を身につける。
- マジョリティには見えない日本社会の抱える問題点に気づき、考え、改革のための行動を起こす力を身につける



テーマ

在日コリアンが見つめる日本の姿を知る

連携先

一般社団法人 神戸コリア教育文化センター

主な活動場所

神戸市長田区 神戸コリア教育文化センターおよび神戸市立蓮池小学校

キーワード

在日コリアン 繙承語・継承文化育成 多文化共生 マジョリティの変容

活動内容 概要

日本の公立学校に通いながら、継承語・継承文化としてのハングルや在日コリアンの歴史を学ぶ在日コリアンの子どもたちの、継承語・継承文化学習のサポートし、12月に行われる民族学習発表会開催の支援を行います。

神戸コリア教育文化センターは阪神大震災以来、在日コリアンの子どもたちの民族教育の場（オリニソダン=子どもの学校）を神戸の公立小学校の中に位置づけ、形成してきました。また民族教育の発表の場（オリニマダン=子どものひろば）は神戸の道徳・人権教育副読本にも取り上げられ、多くの小学生の人権教育国際理解教育の場となっています。

在日コリアンの子どもたちとともに活動を行い、子どもたちや保護者たちと肩を並べて、触れ合うことで在日コリアンコミュニティから日本社会を見つめなおします。

活動の目的

在日コリアンの子どもたちや保護者、会場となる公立小学校教員とともに活動をすることで、日本社会をマイノリティの視点で見つめなおし、いまある日本社会の問題を改善改革するには何が必要か考え行動する力を涵養します。

求める人材像

- ・他者の視点に寄り添える。傾聴する力を持つ。判断を留保する力（エポケー）を持つ。
- ・異なる意見 / 視点を尊重できる。

活動を通じて

得られる

知識・スキル・視点など

- マイノリティの立場、マジョリティの立場双方から社会を俯瞰する力を身につける。
- マジョリティには見えない日本社会の抱える問題点に気づき、考え、改革のための行動を起こす力を身につける



テーマ

中国「残留日本人」とその家族のライフヒストリーから
考える私たちの社会

連携先

中国「残留日本人孤児」を支援する兵庫の会

主な活動場所

明石市。明石駅前の日本語教室

*学外での活動に加え、学内での事前・事後学修を適宜実施します

キーワード

中国残留日本人、日本語教室、多文化社会

活動内容 概要

中国残留日本人とは、第二次世界大戦終結時、中国東北地方（「満洲国」）に置き去りにされた日本人の子ども・女性たち（残留孤児・残留婦人）です。彼・彼女たちは戦後も長い間、日本に帰国できず、1972年に日中国交が回復した後、ようやく日本への帰国を許されました。しかし日本語もできず、日本への帰国後も多くの困難を抱えて生活しています。

本プログラムでは、こうした中国残留日本人とその家族の皆さんを支援する活動に加わり、

こうした人々がなぜ、現在、日本に暮らしているのか、私たちの社会の成り立ち、歴史を知り、

私たちの社会は今後、どうあるべきかとともに考えます。

具体的には、下記の活動を行います。

- 1) 9月以降、毎月3回（木曜日）の午後1時～3時30分、中国残留日本人とその家族の日本語教室に通い、日本語教育・教室運営の補助を行う。
- 2) 中国残留日本人の歴史や現状について理解を深める交流会や懇談会、学習会などの企画・運営に参画し、ボランティアの方や中国「残留日本人」の皆さんとの取り組みを学ぶ。
- 3) 摂南大学にて成果報告会を行う。

活動の目的

過去の戦争から現代にいたる大きな社会の変動の中で生き抜いてきた中国残留日本人やその家族の人生を知り、日本語学習・交流事業を支援し、多文化共生の社会に向けて実践的・主体的に取り組む。

求める人材像

戦争、日中関係、中国残留日本人・帰国者、多文化共生社会などに興味・関心がある方。

活動を通じて
得られる
知識・スキル・視点など

- 日本語の教育、多文化共生の実践力、近現代の歴史・日中関係・中国残留日本人などに関する地に足のついた知識